

4 市の様子と人々の暮らしのうつりかわり

かわってきた喜多方駅

喜多方駅のまわりは、
どのようにかわってきた
のでしょうか。

太郎さんたちは、喜多方駅のまわりの
写真を見くらべながら、気づいたことを話し
合いました。



駅の屋根やかべ、周
りに止まっている車
などに、ちがいはあ
るかな？



↑今の喜多方駅



「昔と今では、様子かなりちがうね。」



「たて物の数や形、歩いている人のふくそうも、今とは
かわっているね。」



「駅のまわり以外は、どうだったのかな。」

かわってきたわたしたちの市

市の様子のおつりかわりについて、ぎもんに思ったことを話し合い、学習問題をつくろう。

太郎さんたちは、喜多方市中心部の昔^{むかし}の写真と、今の写真を見くらべて、気づいたことについて話し合いをしました。



←昔の喜多方市
(50年ほど前)



←2013年ごろの喜多方市



「写真をくらべると、たて物の数が多くなったように見えるよ。」



「田や畑の形や場所もかわっているね。土地の使われ方がかわったのかな。」



「道路や鉄道の様子もかわったと思うよ。」



「人々の生活もかわったよね。道具や服^{ふく}そうもかわっていそう。」

太郎さんたちは、市がどのようにかわってきたのか、調べてみることにしました。

学習問題

わたしたちの市は、いつごろ、どのようにかわってきたのでしょうか。

調べること

- ・道路や鉄道は、どのようにかわってきたのか。
- ・土地の使われ方は、どのようにかわってきたのか。
- ・人の数は、どのようにかわってきたのか。
- ・学校などの公共しせつは、いつごろできたのか。
- ・くらしの道具は、どのようにかわってきたのか。



先生が子どものころにはなかった、大きな道路ができたみたいだよ。

調べ方

- ・昔のことにくわしい人に聞く。
- ・地いきのしりょう館に見学に行く。
- ・市役所の人に聞き取りをする。
- ・インターネットで調べる。



喜多方市の人口は、昔とくらべるとどのようにかわっているのかな。



昔の人が使っていた道具を見ることのできるしせつはないのかな。

まとめ方

- ・市の様子と人々のくらしのうつりかわりを年表にまとめる。



市の様子と人々のくらしのへんかには、どんなかんけいがあるのかな。

道路や鉄道のうつりかわり

市の交通はどのように、どのようにかわってきたのでしょうか。

太郎さんたちは、道路や鉄道の变化によって人々がどのようにかわったのか話しました。

鉄道や道路 できごと	60年以上前	50年ほど前	今
	●鉄道が開通(1904年)	●河川が整備された ●日中線廃線(1984年)	●会津縦貫北道路全線 開通



↑ 60年ほど前の塩川

【塩川】



↑ 現在の塩川

国土地理院



「今と60年ほど前の塩川の地図を比べると、川の形が変わっているね。」



「今は会津縦貫北道路が整備されたんだね。平成27年(2015年)に全線開通したそうだよ。」



「車が通やすくなったと思うよ。家や工場もふえたのではないかな。」



「他にはどんなことが変わったんだろう。」

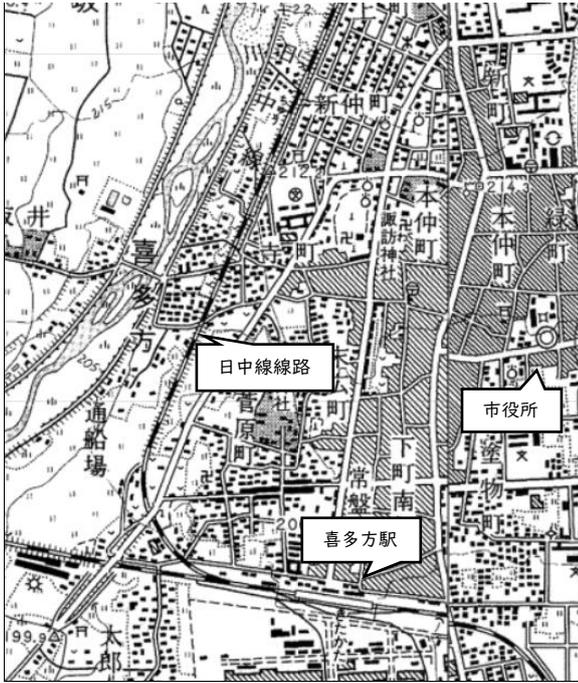


会津縦貫北道路



← 会津縦貫北道路の開通式の様子

【喜多方市中心】



↑ 50年ほど前の喜多方市中心



↑ 現在の喜多方市中心

国土地理院

太郎さんたちは、会津若松市と喜多方市をむすぶ新しい道路や鉄道ができた^{にちゅうせん}り、日中線がなくなったりしたことで人々の生活がどのようにかわったのか話し合いました。



「今から50年ほど前の1972年の地図と比べると、線路の数がちがうね。」



「昔は、日中線という線路があったそうだよ。今は、日中線があったところは桜並木になっているね。」



「おしきりがわこうえん、押切川公園や喜多方プラザは昔はなかったんだね。」

鉄道

鉄道は一度に多くの人を運ぶことができ、かんきょうにやさしい交通きかんです。

GoogleMap



日中線を走っていたきかん車



日中線転車台跡地



日中線しだれ桜並木



日中線記念館

土地の使われ方のうつりかわり

土地の使われ方は、どのようにかわってきたのでしょうか。

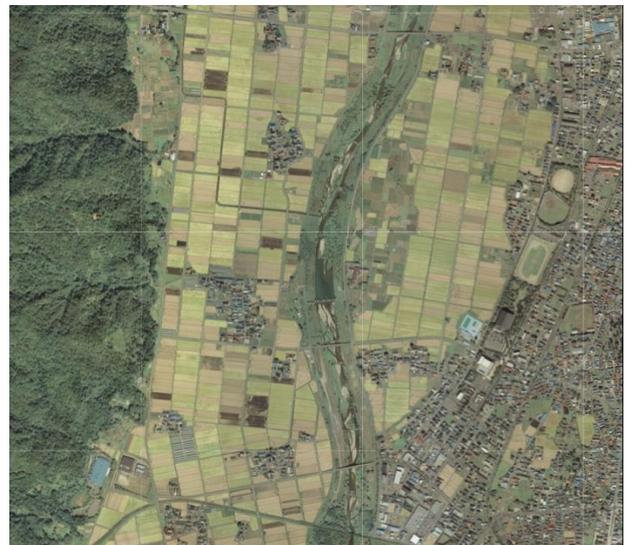
太郎さんたちは、市の土地の使われ方をしめた地図をくらべて、気づいたことを話し合いました。

土地の使われ方	60年以上前	50年ほど前	今
わかったこと、気づいたこと	● 田や畑が多い	● 市民プールができる (1970年)	● 田が耕地整備される ● 押切川公園などができる

【喜多方市中心】



60年以上前



今

国土地理院



「60年ほど前と今の写真を比べると、田の形がずいぶんちがうね。」



「田が長方形になったことでどんなよいことがあったのかな。」



「喜多方市は米作りもさかんだって聞いたことがあるけど、なにか関係があるんじゃないかな。」



「50年ほど前は、川が2本流れているね。今は1本になっているよ。」

【塩川】



50年ほど前



今

国土地理院

今と昔の喜多方市中心や塩川の地図をもとに、土地の使われ方や変化について気づいたことを話し合いました。



「川がへったり、形が変わったりしているね。川があったところは、今何になっているのかな。」



「押切川公園に行ったことがあるよ。場所の名前に川とついているのはそのためかな。」



「どうして川を1本にしたんだろう。」

太郎さんたちは、市役所周辺の土地の使われ方のうつりかわりについて、市役所の人にしつもんしました。



「50年ほど前まで川が2本ありました。押切川はたびたびあふれ、民家や田畑へ大きなひがいがありました。これらをせいびすることで、水害が少なくなり、安心して生活できるようになりました。また、埋め立てた河川敷を住宅や公園として活用しています。」



阿賀川河川事務所

日橋川 冠水した塩川(1941年)



喜多方市の文化財

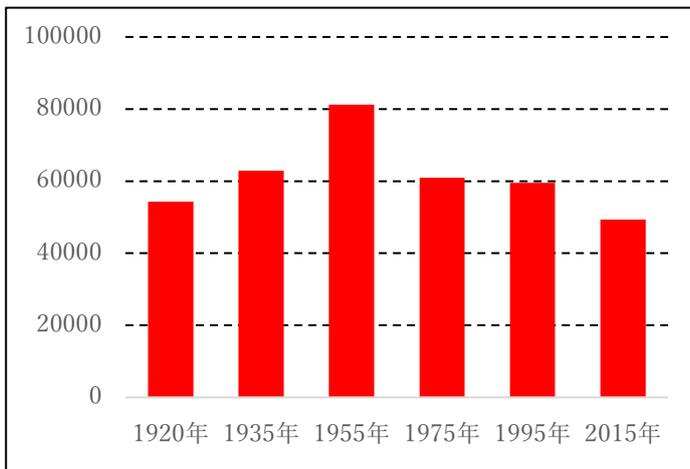
川ははんらんしないようにおいのりをし、おいのりをした文書がうめられている^{きよただん}経壇公園(喜多方上町)

人口のうつりかわり

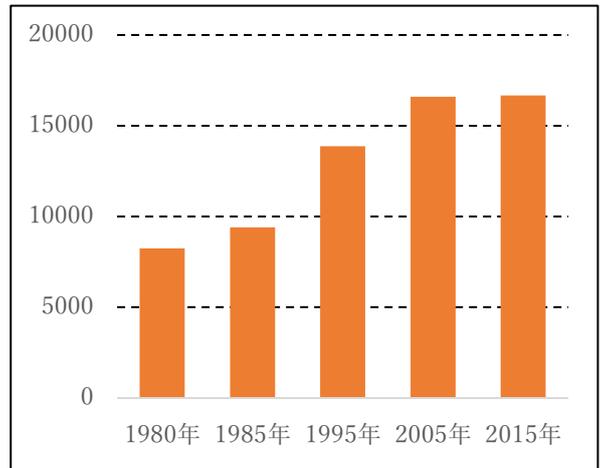
市の人の数は、どのようにかわってきたのでしょうか。

太郎さんたちは、市の人口のグラフを見て、話し合いました。

人口	70年から60年ほど前	50年から40年ほど前	今
わかったこと、気づいたこと	●1町7村が合併し、喜多方市になる(1954年)	●お年よりの数がふえて いる	●およそ160人の外国の人がくらしている



↑喜多方市の人口のうつりかわり



↑65才以上の人の数

年	外国の人の数
1980(昭和55)年	118人
1995(平成7)年	90人
2005(平成17)年	190人
2010(平成23)年	175人
2015(平成27)年	158人

↑市に住む外国の人の数

人口

市や県、国など、その地いきに住んでいる人の数のことです。



「1935(昭和10年)から1955年の間に人口がふえているね。」

昭和になってまわりの町や村と一つになったんだね。」

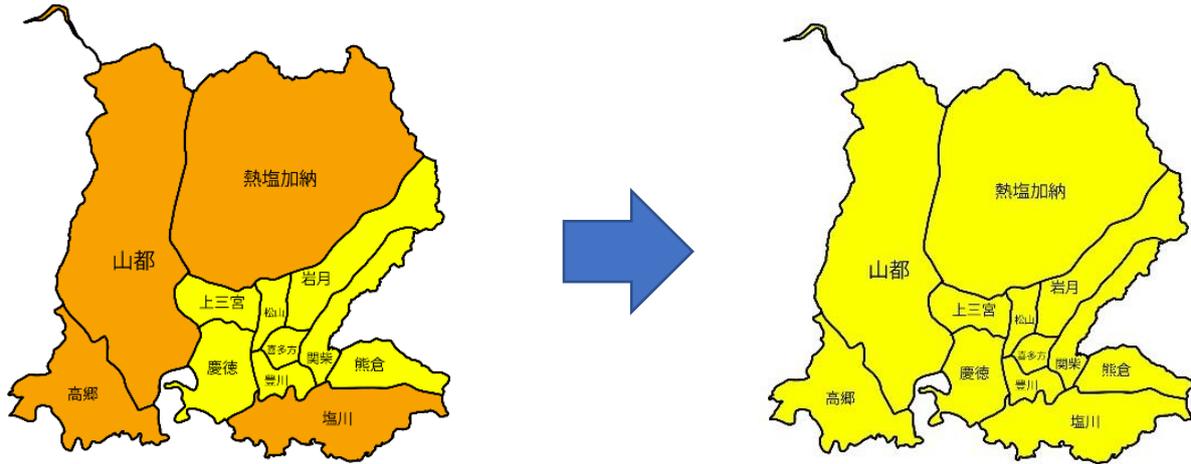


「昭和のころは人口が大きくふえているね。平成になってからはお年よりの数がふえているよ。」



「市に住む外国人が1995年からとてもふえたね。」

太郎さんたちは、市の土地の広がりについても、調べてみることにしました。



■…合併して喜多方市になった地域
1954年(昭和29年)
喜多方町, 松山村, 上三宮村, 岩月村,
関柴村, 熊倉村, 慶徳村, 豊川村の1町7村が合併

■…合併して喜多方市になった地域
2006年(平成18年)
喜多方市と熱塩加納村, 塩川町, 山都町,
高郷村の5市町村が合併

太郎さんたちは、市の人口のうつつりかわりについて、市役所で話を聞きました。

市役所の方の話



1954年に喜多方町, まつやまむら 松山村, かみさんみやむら 上三宮村, いわつきむら 岩月村, せきしばむら 関柴村, くまぐらむら 熊倉村, けいとくむら 慶徳村,
とよかわむら 豊川村の1町7村が合併して市になったときの人口は、およそ8万千人でした。その

あつしおかのうむら 後, しおかわまち 熱塩加納村, やまとまち 塩川町, たかさむら 山都町, 高郷村といっしょになり、今の喜多方市の形になりました。最初の喜多方市とくらべると、今の広さはおおよそ2.6倍になりました。平成になると、お年よりの数がふえてきました。また、現在では市に住む外国人は、およそ160人です。

公共しせつのうつりかわり

市の主な公共しせつは、いつごろできたのでしょうか。

太郎さんたちは、わたしたちの学校がいつごろできたのか調べてみました。



「今から 120 年以上も前の 1900 年ごろにはできているよ。学校がたてられる前は寺で勉強をしていたそうだよ。」



「ほかのたて物はいつごろできたのだろう。」

明治時代の小学校



喜多方男子小学校
明治42年(1907年)

喜多方市立図書館



昭和 47(1972)年に開館
喜多方市立美術館



平成 7(1995)年に開館

喜多方プラザ文化センター



昭和 58(1983)年に開館
喜多方市役所



2015年に新しく建てられた



「1980 年頃に、公共しせつが多くつくられたんだね。」



「公共しせつは、どのようにしてつくられるのかな。」

税金

市や国などが集め、公共しせつをつくったり、みんなに役立つ活動を行ったりするために使われるお金のことです。

公共しせつの方の話

図書館など市民のみんなが使うしせつは、みんなから集めた税金ぜいきんをもとにつくられています。地いきのみなさんに親んでもらえる企画を考えたり、情報のていきょうびじゅつかんをしたりしています。美術館は、蔵のまちらしく、れんが蔵をイメージし、地元で焼いたれんがも使われています。

道具とくらしのうつりかわり

くらしの中の道具は、
どのようにかわってきた
のかな。

太郎さんたちは、生活で使う道具がど
のようにかわっていったのかについても知
りたくなりました。そこで、くわしく調べ
るために、市内のきょう土民俗館に見学に
出かけました。きょう土民俗館には、昔使
われていた道具がてんじされていました。



↑きょう土民俗館の中の様子

喜多方市内には、他に
山都民俗資料館、高郷き
ょう土資料館、高郷民俗
資料館、日中線記念館な
どがあります。近くの資
料室に行ってみましょ
う。



「見たことのない道具がたくさん
あるよ。」



「この道具は、どんな使い方をし
ていたのかな。」



「この道具の代わりに、今はどん
な道具が使われているかな。」

ゆうきさんたちは、くらしに使う道具がどのよ
うにかわってきたのかを調べ、古いじゅんになら
べて年表をつくりました。

	大正 1912年	昭和 1926年	平成 1989年	令和 2019年
アイロン	炭火アイロン あつい炭を入れ、そのねつでしわをのばす。		電気アイロン 炭火から電気に変わり、温度調節ができるようになった。	スチームアイロン アイロンときりふきがセットになり、使いやすくなった。
せんたく	せんたく板 きざみ目のついた板に衣服をおしつけて、よごれを落とす。		電気せんたくき 自動で洗えるようになった。よこについているローラーを手で回して水気をとる。	全自動せんたくき スイッチをおすだけで、せんたくからかんそうまでできる。
喜多方市のできごと	<ul style="list-style-type: none"> ・今の喜多方市役所ができる。(平成二十七年) ・五つの市町村ががっぺいして、今の喜多方市ができる。(平成十八年) ・大雨で田付川、押切川、濁川がはらんした。(昭和四十二年) ・八つの町村ががっぺいして喜多方市ができる。(昭和二十九年) ・太平洋戦争が始まる。(昭和十六年) ・日中線(鉄道)が開通する。(昭和十三年) 			



炭火アイロン



スチームアイロン



せんたく板



全自動せんたくき



「同じ役わりをする道具でも、昔と今ではちがいがあることが分かるね。」



「昔の人々の努力のおかげで、道具が便利になってくらしやすくなったんだね。」



「道具のほかにも、昔と今でちがう道具はあるのかな。」

市のはってんのために

喜多方市では、市のはってんのためにどんな取り組みが行われているのかな。

太郎さんたちは、喜多方市のこれからのために、どのような取り組みが行われているのか、調べてみることにしました。



↑ 広報紙「きたかた」



「喜多方市では、市からのお知らせを発信したり、市の取り組みをしょうかいしたりする広報紙を出しているね。」



「喜多方市を盛り上げるためのイベントも行われているよ。市のみりよくやれきしを発信するしせつも作られているんだ。」



↑ 喜多方市で行われているさまざまなイベント



↑ 日中線記念館



「わたしたちの喜多方市が、これからどんな市になっていってほしい？」



「子どももお年よりも、みんなが楽しくらせるまちになるといいな。」



「喜多方市のみりよくを知ってもらって、多くの人に来ててもらいたいな。」

太郎さんたちは、市がこれからどのようにしてほしいか話し合いました。そして、話し合ったことをたくさんの人につたえるためのポスターをつくることにしました。